

外部評価委員：森田潤一 池田浩一郎 木通清美 國分伸枝 岩上佳夫 河合真子
東純生 永田朗（敬称略）

報告書作成者：峯川一義

評価時期 平成28年2月

1 重点目標の評価

(1) 重点目標1（地域、様々な人々とのかかわりを通して豊かな心の育成）

- 多彩な活動を計画して、地域の人々や併設小学校児童とのかかわりを深めている。特に、併設幼稚園の利点を生かして、小学校入学時に小1プロブレムが起きないような、小学生との意図的な交流が実施されている。今後、ますます小学校教育との接続が重要になることを踏まえ、幼・小の教師同士の交流の機会を質・量とも充実させていくことが求められている。
- 保護者に対して、幼児期における「豊かな心」の要素や具体的な姿を明らかにする必要がある。幼児一人一人の発達の特徴を捉えながら、園全体としてどうであったかを評価するとよい。

(2) 重点目標2（戸外での様々な遊びを通して心と体の育成）

- すべての評価指標で保護者の満足度が高い。しかし、戸外での遊びでの「安全」については、必ずしも万全とは考えていない保護者も少なからずおり、この面では園として一層の努力が必要である。

(3) 重点目標3（家庭との連携、子育て講演会、家庭教育学習会への参加）

- 概ね良好であるが、一層保護者の願いや思いを受け止める園の姿勢が求められている。教師一人一人が、保護者の思いや願いを真摯に受け止めるとともに、幼児一人一人の発達や心身の状況を理解し、保護者と連携・協力して一緒に育てていく姿勢が一層望まれる。
- 保護者アンケートの実施時点で実施されていない行事があり、それが評価に影響を及ぼしていると考えられる。評価実施時点で未実施がないように実施計画や評価計画を立てる必要がある。

2 今後の改善に向けた意見

- 定期的な園内研修会やOJTが円滑に機能しており、経験の浅い教師に対する指導・育成が行われている。研究・研修のテーマや内容については、毎年検討して具体的に設定するとよい。
- 幼児同士だけではなく、教員同士の連携を一層図り、両者の教育の違いについて十分に理解・意識して教育活動に取り組むことが、併設園の特色を生かすことにつながるのではないかと考える。

3 その他の意見

- 教育活動を参観した限りでは、週ごとの指導計画に従って、適切に教育活動が行われており、幼児が園の生活に満足している様子がうかがえた。